

浸透するみち

コンセプト

図書館とそれに付随したコミュニティ施設と歩行者優先の道によって、街のコミュニティの活性化を提案する。

プログラム

敷地は千葉県松戸市の駅から5分ほどで着く道である。そこにある、図書館と集合住宅に着目した。図書館は道に点在させ街と道に馴染ませ利用しやすくし、集合住宅は1・2階をりのペンションをし1階は図書館2階は、市民活動スペースとし市民に開放する。

デザイン

道は利用する年齢に合わせて雰囲気をかえ、歩いていて変化を感じられるようにした。また、本館は昔あった町屋の要素をいれ、市民全体の家というイメージ



出廣亜香音
建築設計計画研究室



□ ダイアグラム

1、図書館の分散

誰もが利用したことがある図書館を道に点在させ渡り歩いてもらう
そこに、市民活動スペースを足して滞在時間をながくする



道沿いにつく図書館

2、集合住宅の選択

空室でむだになってしまう空間を市民に開放する
それで、スラム化を防ぎ地域安全を高める



道沿いにある集合住宅をいろいろ



道沿いに図書館を5つに点在させる

その中から6階以上で隣接している建物がないか、
2棟続いている集合住宅をピックアップ



自分の用途に合わせて人々が行き交う

3、コミュニティをつくる

年齢層に分けそれぞれにあった施設を置くことで
その中でコミュニティを活性化させる



4、道の改善

通り過ぎる道をコミュニティの場にする



ただ通りすぎる道を外部ファニチャーを置くことで人のたまりができる



年齢層で分ける



その中でコミュニティが生まれる

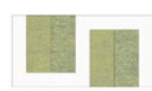


道のパターン

松戸に広がる田園風景



松戸の自然のへり



田んぼを横切るような緑のあり

